



ウトナイの子

【教育目標】 夢をいだき 未来を拓くたくましい ウトナイの子の育成

令和2年8月7日

第4号

Tel 57-6700

Fax 57-6715

人の痛みや思いをくみ取る心を

校長 丹野 靖彦

コロナウイルス感染症による長期の臨時休業をおこない、学習の遅れを回復するために夏休みが短縮され、本日1学期の終業式を行いました。この間の様々な学校の予定の変更や家庭での学習、感染予防等へのご協力をいただいておりますこと感謝申し上げます。

With コロナとも言われますが、これからの社会・学校は、コロナウイルス感染症などの感染予防をしながら日常生活を送る新しい生活様式が求められます。そうしたときに、子どもたちに育みたいことは、「人の痛みや思いをくみ取る」心だと考えております。

一つの事例ですが、岩手県はコロナウイルスの感染者がゼロの状態が続いておりましたが、先日感染者がでました。日本中つながっていますから、特定の県が感染ゼロのままということはないだろうと冷静に考えればよいのですが、この初めての感染者について、誹謗中傷がネット上に散見し、実際に当事者の会社や家庭に嫌がらせの電話等もあったと報道がありました。感染は罪なのでしょうか。むしろ、いつ誰がかかるかわからないからこそ、みんなで気をつけようという気持ちになることが大切ではないのでしょうか。感染された人が一番ショックであるはずですし、そうした気持ちを想像して周囲が行動することが必要ではないでしょうか。

もう一つの事例です。マスク警察なる人もみられ、マスクをしていない人を罵倒したり、強く叱責したりするなどの行為を、正義感から行う人々を指す言葉だそうです。マスクをできない事情の人もいます。アレルギーや、自閉症等の障害から来る触覚上の課題等、様々な理由でマスクをつけることが困難な人もいます。できるだけ多くの人々がマスクをつけることが望ましいのは、感染予防の観点からもわかりますが、そうしたマスクの装着が難しい人もいるということに思いを巡らせてほしいとも思います。

こうした感染拡大等の危機的な状況になると、どうしても自己防衛的かつ攻撃的な言動になりがちですが、こうしたときだからこそ周囲が何に困っているのか、みんなで何を助け合えば良いのかということを考えていきたいと思えます。学校でも子どもたちの行動に感染予防の観点から、多くの場面で規制的な状況となっています。子どもたちのストレスも多いと感じています。そういうときだからこそ、子どもたちの心に「人の痛みや思いをくみ取れる」という優しさを育みたいと考えています。

明日から短い夏休みです。少しでも子どもたちのストレスが軽減し、少しでも日常できない経験を通して、興味関心をひろげてほしいと願っています。そうした夏休みを過ごしたことで心が少し軽くなり、2学期には元気に登校して、人を思いやり共に助け合う学校生活を送ってくれることを期待しています。

1学期学校教育活動や感染予防等にご協力ありがとうございました。



お子さんの送迎時は、校舎側に駐停車してください！

川側への駐停車は、危険です！